

お茶小  
錦華公園

# 住民の力で リニューアルオープン 8年前の出来事から

子ども達や先生の声も  
聞かせてください!

区民・議会が知らないところで、隣接大学と土地交換の話が進んでいました。当時の地域住民の署名や議会での公述によって『現地で早急に建替えを』とする陳情を多数の議員が支持しました(平成28年6月20日区議会特別委員会議事録参照)。もしあのまま移転の話が続いていたら、地域の住民は対立し、混乱が続いて

いたかもしれません。お茶小が移転せず「神田猿楽町一丁目一番地」に完成したことは、**住民と議会が、行政を動かした貴重な事例**だったと思います。

しかし残念なことに、校舎建替え契約に関し、元議員が契約介入していたことが内部告発によって事件化したことはご存知の通りです。



来年1月で、樋口区政は任期4年を終えます。逮捕された元議員と連携して強引に区政を進めてきたことを、区政に関心ある住民は知っています。区長の官製談合に関する記者会見を見て、違和感がありました。元議員の裁判を傍聴した時の話とくいと違っていると感じました。

委員会を傍聴して、区民に情報を出したくない区の態度が見えました。中身のある返答が来ないため、委員会が長くなるのだと感じました。

## 区民の声

お茶小がオープンし、この夏はプールも一般開放されて良かったと思いますが、いくつも改善点があると思いました。これからでも改善してほしいです。

二番町日テレ再開発の委員会を傍聴しました。住民に必要な情報開示がなされず、地元住民の参加の場もつくられていません。これからでも、住民参加の話し合いの場をつくって欲しいです。



### 樋口区長が記者会見で官製談合事件の原因は「議員のパワハラ」と指摘 カスタマーハラスメントを議会にも適用したい?

千代田区発注の工事を巡る官製談合事件(後にあっせん収賄事件に発展)について、樋口区長は7月31日に記者会見を開き、再発防止に向けた報告書を公表しました。その中で、主な原因を「職員と議員との不適切な関係=議員のパワハラ」と指摘。また、職員アンケートによると、区議会議員が職員に対し「お前の人事異動がどうなっても知らないからな」などとパワハラともとれる発言があったとのこと。不思議なのは、人事異動は「区長の権限」であること。なぜ、一議員が人事異動に言及できるのでしょうか?それは、人事権を持っている区長をはじめとした幹部と繋がっているからではないかと疑問を持たざるを得ません。

議員によるパワハラはあってはならないことですが、他の産業とは違って、議場において厳しく追及することは当たり前のことです。私たちはむしろ、区長をはじめとした行政トップが、一部の議員や企業と近すぎる関係を問題視しています。

区議会における「契約にかかる不正行為等再発防止特別委員会」でも、深く原因追及するのではなく、議員のパワハラの問題として矮小化しようとする動きがあります。真相解明に向けて、区民の皆さんの関心が大事です。ぜひ同委員会の傍聴をしてご意見をお寄せください。

### ちよだの声 YouTube YouTube動画をはじめました! チャンネル登録お願いいたします!!



ちよだの声



小枝すみ子  
sumikokoeda@gmail.com  
090-5506-1516



はまもりかおり  
kaori.hamamori@gmail.com  
070-2654-3920



# ちよだの声 ニュース No.5

## 区政報告

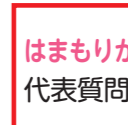
P2: ウォークブルなまちへ  
P3: 高齢者住宅の拡充について  
平和使節団派遣報告  
P4: 官製談合事件の原因は

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区議会  
TEL.03-3264-2111(代表) FAX.03-3237-9805

●この議会報告は公選法に基づき、有権者名簿を閲覧して送らせていただきました。



小枝すみ子  
一般質問



はまもりかおり  
代表質問

## 千代田区でもできる 住民・企業・行政参加型の まちづくり!

### 将来ビジョンの共有が大切

残暑厳しい折、どのようにお過ごしでしょうか。この夏は住民企画の勉強会に参加してもらいました。7月18日は、環境省職員で弁護士の小島敏郎さんを講師に「民主主義と都市計画」のお話を、7月30日には世田谷区元職員の小柴直樹さんに「人をつなぐ街を創る」をテーマに世田谷区の実践事例のお話を伺いました(詳細P2)。区民を二分するような問題が多発する千代田区でも、「こうすればできる」という解決策につながるヒントを得ました。

私たちは主に以下の3点が、千代田のまちづくりにとって大切なことだと考えます。

- 1) 視覚的でわかりやすい模型・VRなど用いたビジョンの共有。
- 2) 始まりの早い段階から、住民の声を聴く。
- 3) 専門家・ファシリテーターの力を借りる。

振り返れば、錦華公園の改修は、住民・議会の提案で模型やまちづくりニュースをつくり、行政もがんばって進めた参加型の良い事例です。同じく、お茶の水小学校は水面下で移転建て替えの話が進む中、住民・議会が声を上げることで、無事現地に整備されました(詳細P4)。

住民・企業・行政が共に一致点を見いだせる「再開発」「道づくり」「まち再生」に、一緒に取り組んでみませんか。

### 政治をあきらめていた人へ

—ちよだの未来の描き方—

2024年9月19日(木)  
19時—21時(開場 18時30分)

- 会場:日本教育会館7階(千代田区一ツ橋2-6-2)
- ゲスト:泉房穂さん(前明石市長)
- 参加費:500円
- お申込み・お問合せ:ちよだの声事務局  
☎ 070-1476-1011
- ✉ chiyodanokoe@gmail.com

先着順です。お早めにお申し込みください。



まだ、終わっていない。「生きやすさ」と「経済」はかならず、両立できる  
日本の政治をあきらめていたすべての人へ

武蔵野政治塾  
ちよだの声  
共催  
区政報告会

泉房穂  
社会の  
変え方



錦華公園の模型



まちづくり  
ニュース  
錦華公園  
だより5号



<30年前のバルセロナ>



<現在のバルセロナ>

出所：バルセロナ市 Jaume Barnada氏資料

## 道が広場になる

# “人”中心の「ウォーカブルなまち」へ

人と人とのつながりを増やし、地域の活力を高めるため、国土交通省は2000年頃から「ウォーカブルなまちづくり」に取り組み始めました。千代田区では、2022年に『千代田区ウォーカブルなまちづくりデザイン』を作成しています。私たちは、より理解を深めるため、バルセロナのまちづくりについて、建築家であり、慶応義塾大学准教授のホルヘ・アルマザンさんとスペインのバルセロナ市役所の職員で、都市計画の住宅局長も務めたことのあるジャウメ・バルナーダさんにお話を伺いました。また、住民・企業・行政による「対話の場」をつくることで、納得度の高いまちづくりを推進してきた、元世田谷区担当部長の小柴直樹さん（現在は一般財団法人世田谷トラストまちづくり 常務理事）に、世田谷区のまちを案内して頂きました。それらの事例から学び、千代田区に提言いたします。

### バルセロナ市から学んだこと

- 30年前、暑さや自然の少なさ、事故、騒音など都市の問題や健康問題を解消するため、ウォーカブルなまちづくりが始まった。
- 2平方キロメートル、徒歩10分圏内に公共施設やスーパーなど生活に必要な施設をプロットする。
- 歩行者優先とし、車や自転車は人に気を付けて徐行する。
- 家の中から人が出てくることで、人もまちも元気になる。
- 道が高齢者が座って話したり、子どもたちが遊ぶ場なども地域のいい場所になる。



### 提言（神田警察通りなど）

- 本当に居心地が良く歩きたくなる「人」中心の道とはどんな道か？ **対立を超えてイメージを共有することが大事。**
- 歩行者と自転車のゾーンを明確に区分しない(シェアスペース)ことで、より豊かな空間となる。

出所：ホルヘ・アルマザン・アーキテクト



### 世田谷区から学んだこと

- 都市計画決定後でも話すことに意味がある。
- 「誰でも参加できる場」をつくること。プロセスが大事。
- 中立となる学識経験者や専門家がいると良い。
- 正義は複数あることを理解すること。
- 行政は、模型やVRなどを使ってきちんと説明する。
- デザインガイド、まちづくり条例をつくる。



### 提言（日テレ再開発など）

- 都市計画決定された今こそ、千代田区は誰でも参加できる場をつくるのが大事。
- 中立となる学識経験者等にファシリテーターを依頼する。
- 模型やVRを活用し、具体的にイメージを共有できるようにする。



### 「北沢デザインガイド」とは？

小田急線の上部空間の整備や周辺の街づくりにあたって、地域の個性を生かしながら、秩序のある連続した空間づくりに役立つためのデザインの指針として活用します。「上部利用デザインワークショップ」により導き出された「デザインコンセプト」の理念に基づき区施設の整備におけるデザインの方針や具体的な方策を示すとともに、周辺施設に対して区施設とのデザインイメージの調整をお願いする際の区の指針としても活用します。

「デザインコンセプト」	.....	目指すべき将来像を表現した3つのコンセプトと6つの視点
コンセプト1	「四季を感じ、みんなにやさしい空間が、多様な人々をつなぐ」	自然を感じる空間 人々の集い
コンセプト2	「街の記憶や風景を映し、3駅につづく新たな路が、私たちの地域をつなぐ」	街の記憶 街の風景
コンセプト3	「みんなで創り育て、ゆるやかに変わる場所が、時を超え心をつなぐ」	空間の変化 市民の関わり



住民・企業・行政と一緒に考えた世田谷区のまちの風景

出所：世田谷区ホームページ



# 高齢者住宅の拡充 について

**問** ●千代田区は30年前に、夜間人口が減った危機感から、10年ごとに住宅基本計画を定め、今年で第三次計画が終了となります。これまでは、人口を増やすことばかりに腐心し、コミュニティ・文化を継承してきた住民たちは大切にされてこなかったのではないかと思います。「区営住宅に10年申し込み続けているがまったくあたらない」といった高齢者の声もあちこちで耳にします。いまから作る10年計画には、高齢者の声を反映する必要があります。

●第4次計画策定に向けて7月より『住宅基本計画改定検討会議』がスタートしました。住民目線で計画を見直して欲しいと求めましたが、その答弁は、検討会議の中で検討します、とのことでした。

議論だと感じました。行政も頑張っています。●ぜひ、傍聴に行き、今度こそ、住民の目線にたった「第4次住宅基本計画」が作られるように注目していきましょう。



## 区の答弁解説

- 第3次住宅基本計画（平成26年—36年）では、高齢者人口に対する高齢者向け住宅割合の数値目標を、2.5%から5%にすると決めていましたが、現状は3.9%（令和4年度）止まりでした。
- サービス付き高齢者住宅はゼロ、老健施設もゼロ、軽費老人ホームは1か所のみです。
- 8月2日『第2回住宅基本計画検討会議』を傍聴しました。住民の方も良く発言されていて中身の濃い重要な会

## 第3回「住宅基本計画改定検討会議」を傍聴してみませんか。

9月4日（水）9時半～  
601号会議室  
問合せ先：03-5211-3651（住宅課）



## ガザ地区における即時停戦の実現等を求める決議（案）

パレスチナ自治区ガザ地区において、現在、3万5000人を超える子供、女性、高齢者を含む多くの尊い人命が犠牲となるなど、深刻な人道危機が続いている。国際平和都市千代田区宣言で「世界の恒久平和を実現するために積極的に行動する」ことを宣言した千代田区としてもこの事態は、見過ごすことができないものである。よって、千代田区議会は、これ以上、市民の人命を危機的状況に晒すことがないよう、イスラエルとハマスの双方をはじめとする全ての当事者及び国際社会に対し、一刻も早い事態の解決に向けて次の事項の実現を強く求める。

- 1、人道目的の即時停戦及び人質の即時・無条件の解放
- 2、イスラエル軍のガザ地区からの即時撤退
- 3、国連憲章及び国際人道法を含む国際法を遵守
- 4、市民の被害の最小化、人道支援物資の速やかな供給を通じた人道危機の改善

なぜか!?

否決されました!!  
第二回定例会においてガザ地区の即時停戦を求める決議を提出しましたが、賛成は岩田、牛尾、小枝、はまもりの4名のみで否決（敬称略）未だに否決された理由がわかりません。

7/10

## 報告 平和使節団派遣（沖縄・鹿児島）7/22～25

令和6年度平和使節団（区内の中高生5名）に同行し、戦場となった「沖縄」と特攻隊が出撃に飛び立った「鹿児島」を訪れました。

鹿児島（知覧）では、特攻隊員が家族や恋人に宛てた手紙や、国のために命を捧げる決意が記された手紙を目にしました。しかし、中には検閲を受けておらず、「特攻隊のパイロットは一器械に過ぎぬ」と非人間性を批判するものもありました。

沖縄では、ひめゆりの塔や沖縄県平和祈念資料館、ガマ等を訪れ、ひめゆり学徒隊の過酷な状況を知りました。数か月前までは勉強や部活に励む普通の学生であった彼女たちは、負傷者の手当や炊事の準備に追われ、立ったまま仮眠を取る日々でした。空爆の合間に負傷兵の切断した手足や汚物を捨てて行くこともあったそうです。

講和者の方が「陸軍トップの自決を知っていたれば、また捕虜になっても殺されないことを知っていたれば、

友人は命を落とさずに済んだかもしれない。」と仰っていました。正に「情報」が生死を分けたのです。

また「戦争は人間を人間でないものにしてしまう。」「もう絶対に戦争はだめ。平和のための戦争というのは絶対ない。」という言葉も強く心に残っています。

最終日は、千代田区・糸満市の中高生合同ワークショップがありました。「平和とは何か？」という問いについて、参加者から「自分の意見が言えること」「何気ないことで笑えること」「好きな時に好きなことができること」「未来について考えられること」といった意見がありました。戦争の怖さを見て聞いて感じた中で出てきた、素直で的を射たことばだと感じました。

平和のために私たちは何ができるでしょう？まず、戦争の残酷さを知ること。情報を鵜呑みにせず自分で考えること。おかしいと思ったら声をあげること。そして、対話の手法を学ぶこと。皆さんはどう思いますか？



戦争体験者 上原美智子さんと